

## 0 理念

### 進捗状況報告

「キリスト教神学」のみならず「キリスト教思想・文化」領域における人材育成を明確にするために、神学部コース制における卒業生を輩出する2008年度に、前期課程にもコース制を導入する（キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース）。同時に研究分野も、聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野の4つに再編する。

キリスト教神学・伝道者コースでは、伝道者像や育成プログラムを明確にすべく、礼拝学・説教等の実践的な科目を整備していく。また主として社会人学生や他領域からの進学者を念頭に、日本基督教団補教師試験での学科試験科目を考慮しつつ、神学の基礎を学ぶ基礎科目群（学部科目と合併）を開設する。

演習では、開講している夏期集中実習「教会実習」「臨床牧会実習」の整備・拡充を目指し、事前・事後の講義または実際の実習における内容を精査している。「教会実習」は現段階においても、学生に毎日の実習ノート作成（実習教会の歴史・現状・宣教課題や担当礼拝における自己反省・第三者評価、特にテーマとして取り組んだことなどを記入）を義務付け、単位修得のための採点については「教育プログラム」「礼拝並びに説教」「牧会活動」などの視点から全体の60%を実習教会が担うなど、将来の伝道者とともに育てるべく責任を共有するものとなっているが、そのための教会側と実習内容等の入念なすり合わせをどのように行っていくか、今後さらなる検討・工夫が必要であると認識している。「臨床牧会実習」は、より幅広く受け入れ先を検討する必要があるが、一方で医療の現場での諸問題を考慮するとき、派遣先との極めて丁寧な打ち合わせはもとより、派遣学生の適性および心のケアも重要になってくることから、慎重に検討しているところである。

キリスト教思想・文化コースでは、2008年度に向けて必修・選択必修となるべき科目を検討し、カリキュラムを策定した。従来からキリスト教に関する幅広いテーマを研究する学生が多くみられたが、学生が専門とする分野を中心にしながらも、他の分野からも授業を履修する制度を整えることで「修士（キリスト教）」という学位にふさわしいカリキュラムとなるよう、学則の改正を行った。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

将来の研究の方向や就職先についての準備は重要であると認識している。研究の方向性については、2008年度以降入学生を対象に、学位取得までのプロセスを明確化し提示できるよう、研究科委員会で検討を進めている。課程博士（甲号）学位取得については、大学の制度である大学院奨励研究員制度を利用するなどして、早い時期に学位を授与できるよう指導を強化している。

また就職について、学部生を主な対象としているが、2006年度より進路ガイダンス「一般就職編」および「牧会編」をそれぞれ開催しており、ともに大学院生にも参加を呼びかけている。特に「牧会編」においては、大学院生の関心も高く、参加者も少なくない。2008年度よりキリスト教思想・文化コースを置くことに伴い、研究者志望と同様に一般就職志望者も増える可能性があるが、キャリアセンターを中心とした全学の取り組みのなかでどのように準備環境を整えるか継続的に検討している。なお、進路希望調査についてはすでに全学的に実施されている。

### 学内第三者評価

2008年度から研究科に「思想・文化コース」を開設し、学部の同じコースからの大学院進学に道を開くことは望ましい方向である。

「神学・伝道者コース」の充実のために実習を整備することは評価できる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・全体にわたり真剣な対応が感じられる。
- ・社会人学生の受け入れや実習のあり方に工夫がみられる。
- ・神学研究科の公表している「教育目標および人材育成の目標」に記された「具体的な社会や世界の問題を発見し……解決できる人材の育成」に関して、どのように実現を図っていくかについての具体的な方策の検討が望まれる。